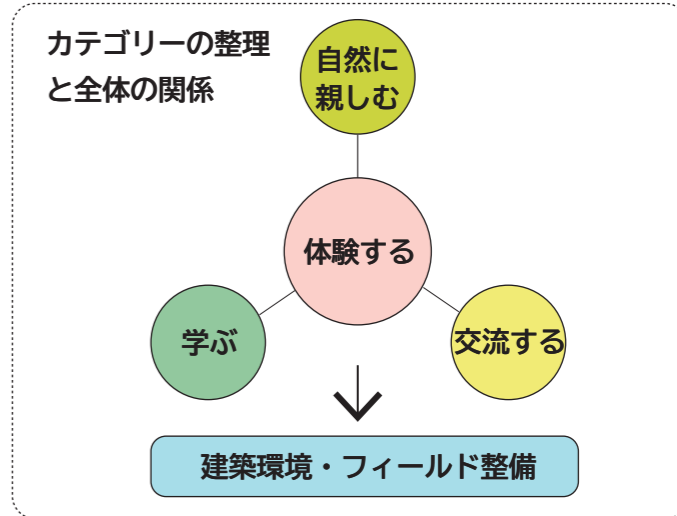


令和7年12月20日(土)開催

「富士見町新井戸尻考古館 設計ワークショップ」 全体のまとめ

「こんな新井戸尻考古館になったらいいな！」

- ・どんなことや活動をしたい？
- ・そのためにどんな空間や場があったらよい？
- ・原案の図上で考えてみよう



自然に親しむ：四季の自然と向き合う場

景観を愉しみ、内省し、自然環境と調和する

- ◎**自然環境・景観を愉しみ、観察する**
 - ・眺望・音：甲斐駒ヶ岳、富士山を望む。風の音、空気、鳥の声を感ずる(C班)
 - ・天体：冬至の朝日を見る窓、縄文人の見ていた月(B班)
 - ・動植物の観察：ホタルなど虫の観察、トレイルカメラでの記録。縄文人が利用した植物の学習(A、E班)
- ◎**内省・癒やし**
 - ・静かな時間：ただただ草の上でのんびりする、ひるね、まどろむ(C、D班)
 - ・内省：自分の心と向き合う、心が内省的な意識に向かっていけるような外部空間(E班)
- ◎**周辺の自然環境と調和する**
 - ・自然とシンワ、土地を痛めない建物

学ぶ：縄文の学びを深め、探求する場

展示の工夫、研究・バックヤードの公開、深い学び

- ◎**「本物」の展示体験**
 - ・本物の展示体験：風景も展示の一部、何度も来て見たい(A班)
 - ・子供も分かる展示：子供も理解できる縄文人の生活コーナー。ジオラマなど館内常設体験コーナー(C班)
 - ・物量の多い展示：土器・石器をできるだけ多く展示(A、D班)
 - ・本物の土器に触れる：さわられる土器・石器コーナー土器にふれる・観察(A、E班)
 - ・土器の学び：土器の文様から読みとく(E班)
- ◎**研究・バックヤードの公開**
 - ・バックヤードの公開：バックヤード作業、修復作業の公開(A班)
 - ・研究の姿を知る：どのような研究をしているのか知る。バックヤードも見れる(C班)
 - ・資料収集：この地域の資料を集める(E班)
- ◎**学びを深める**
 - ・専門的な学び：現在の考古学における井戸尻遺跡の立ち位置の理解(A班)
 - ・講座・勉強会：定期的な講習会、研究者の発表を聞く講座室、縄文勉強会(A、B、D班)
 - ・図書機能：勉強する場、図書コーナー(D班)

体験する：縄文人の「暮らし」や「ものづくり」を体験し「こころ」にふれる場

実際に手を動かし、五感を使って縄文時代の生活(衣食住・農耕)を体験し、縄文人のこころにふれる

- ◎**敷居を低くし、間口を広げる**
 - ・一日体験：縄文人一日体験、キャンプ、住居での宿泊(C、D班)
 - ・イベント：映画、音楽、音響設備(B、D班)
- ◎**ものづくり・道具づくり**
 - ・土器・石器づくり：縄文土器の作成プロセス体験、土器の素焼き、石器を作る、使う→水場(A、B、C、D、E班)
 - ・道具・作業道具づくり：生活で使ったであろうスキ、カマ、弓矢などの道具づくり(A、C、D、E班)
 - ・素材からの採取：粘土がとれる場所の調査、現地での採取(E班)
- ◎**縄文人の「食」と「火」、「世界観」の体験**
 - ・縄文料理の実食：石器・土器・火を使った調理と実食。(A、D、E班)
 - ・縄文人になる：火おこし、石磨き(A、D班)
 - ・火の使用：火が使える場所、ファイヤーピット、かまど(A、B、C、D、E班)
 - ・縄文人のこころ、死生観にふれる(B、E班)
- ◎**農耕・野外体験**
 - ・農業体験：縄文時代の食物を育てる。井戸尻にある素材(ハス、カラムシ等)を使った体験(B、E班)
 - ・石器を使った農業体験、収穫(A、C、D班)
 - ・発掘体験：土器の発掘体験(A、D班)

交流する：交流を生み出しコミュニティを育む場

来館者、地域住民、多世代の交流、井戸尻の精神の共有

- ◎**憩い・集い・交流・仲間づくり**
 - ・ラウンジ・カフェ：気軽に立ち寄れるスペース、カフェコーナー、ゆったりと過ごすラウンジ、縄文カフェの設置(A、B、C、D、E班)
 - ・集いの場：囲炉裏・丸テーブル・車座の場、大きな土間空間、えんがわスペース(B、C、D班)
 - ・多世代の人が集まる場所：気軽に集まれる場所、子供が自由に遊ぶ、おじいちゃん・おばあちゃんの昔話を聞く、キッズスペース、ロビー、広場(C、D班)
- ◎**「おらあとうの精神」に触れる・発信する**
 - ・コミュニティ形成：井戸尻文化発信のためのグループ形成。わが事として関わる意識(A、B班)
 - ・参加・共創：建物建設への参加、定期的な施設維持活動や環境整備への参加(B班)
 - ・井戸尻にしかない魅力の発信：先人の記録、魅力の発信(B班)、PR・イメージキャラクター(つつちーず)の発信(C班)

環境整備：建築環境とフィールドの整備

施設全体の構造、アクセシビリティ、屋外環境の設え

- ◎**建築環境の整備**
 - ・自然との調和：土地を痛めない建物、自然素材(土壁、茅葺など)の使用(B班)
 - ・大屋根と半屋外：大屋根の下で多様な活動、寒くない吹抜け・快適な内部空間、雨の日も活動できる広い軒下(A、D班)
 - ・特徴のある屋根：屋根に上げれる、屋根に土と草と木(C、D班)
 - ・特別な体験を支える空間：無影灯の照明、通路の工夫、人工物のない静かな場(C班)
 - ・土間空間：体験工房スペース、気軽に立ち寄れるスペース(B班)
- ◎**水場、火が使える場**
 - ・水場の設置(A、B、C、D、E班)
 - ・火が使える場所の確保(A、B、C、D、E班)
 - ・かまど：縄文の暮らし体験(D班)
- ◎**フィールドの整備**
 - ・散策と動線：起伏のある散策コース、駅からのワクワクする導線(A、B、C班)
 - ・インフラ整備：ライトアップ、多言語案内(A、B、C、D班)
 - ・交通アクセス：貸し自転車、電動キックボードのParking、大きな駐車場(C、D班)

大項目	中・小項目	新井戸尻考古館	前庭・外構	フィールド
自然に親しむ: 四季の自然と向き合う場	◎自然環境・景観を愉しむ、観察する ・山の眺望、音を聞く ・天体: 冬至の朝日を見る窓、観月 ・動植物・虫の観察	・ロビー「おらあとう広場」から風景を眺める大きな開口部を設けることを計画。 ・冬至の朝日が館内ロビー「おらあとう広場」に入るよう計画。	・前庭に縄文時代に食されていた実のなる樹木を植える。	
	◎内省・癒やし ・静かな時間: 草の上でのんびり ・内省的な意識に向かえる外部空間	・過去と現在・未来を結ぶ象徴としてのブリッジを計画。	・前庭には芝生を張った、のんびりできる場を計画。 ・前庭の一部に「縄文の森」を計画。	・現在の遺跡公園内の草地で体験できる。
	◎周辺の自然環境と調和する ・自然と親和、土地を痛めない建物	・傾斜のある地形を生かし、自然と調和する配置・断面計画。	・曾利遺跡にみられる環状集落や机原三本松遺跡にみられる段丘に学んだ敷地形状を計画。	
体験する: 縄文の「暮らし」と「ものづくり」の体験の場	◎敷居を低くし、間口を広げる ・縄文人一日体験、キャンプ、縄文住居での宿泊 ・イベント: 映画、音楽、音響設備	・講座・会議室にポータブルの映像・音響設備を計画。	・前庭に「実験畑」、「展示の庭」、「体験の庭」を設け、イベントや体験がきるようなスペースを計画。	
	◎ものづくり・道具づくり ・土器・石器づくり: 縄文土器、石器づくり、使う体験、水場・炊事場 ・生活の道具づくり ・素材の採取: 粘土採取地の調査、現地での採取	・体験工房や軒下(半屋外)でものづくり活動ができるスペース、水場の計画。		
	◎縄文の「食」と「火」の体験 ・縄文料理の実食: 石器・土器・火を使った調理と実食 ・縄文人になる: 火おこし、石磨き火の使用: 火が使える場所、かまど		・前庭の「体験の庭」では、火を使った縄文の食を作る体験等ができるスペース、水場・炉を計画。	・井戸尻史跡公園内で開催される「高原の縄文王国収穫祭」において縄文の食の体験、土器づくり体験ができる。
	◎農耕・野外体験 ・農業体験: 縄文の食物を育てる、井戸尻にある素材を使った体験 ・石器を使った農業体験、収穫 ・発掘体験: 土器の発掘体験		・前庭の「実験畑」では、縄文の植物を育てる体験の場を計画。	
学ぶ: 縄文の学びを深め、探求する場	◎「本物」の展示体験 ・本物の展示体験: 風景も展示の一部。何度も来て見たい ・子供も分かる縄文人の生活コーナー、ジオラマなど常設体験コーナー ・土器・石器をできるだけ多く展示 ・本物の土器に触れる: さわれる・観察する土器・石器コーナー ・土器の学び: 土器の文様から読みとく	・風景を眺める大きな開口部をロビー空間「おらあとう広場」に設けることを計画。 ・展示については、井戸尻考古館の収蔵品の特性を踏まえた展示方法を計画。 ・ロビー空間「おらあとう広場」に縄文の暮らしや土器に触れるハンズオン展示を計画。 ・展示室の床を下げ、スロープで下がって没入感のある展示室を計画。		
	◎研究・バックヤードの公開 ・研究の姿を知る ・バックヤード作業、修復作業の公開 ・資料収集: この地域の資料を集める	・バックヤードの見学会等、管理運営面での対応を検討。		
	◎学びを深める ・専門的な学び: 現在の考古学における井戸尻遺跡の立ち位置の理解 ・講座・勉強会: 定期的な講習会、研究者の発表を聞く講座室 ・図書機能: 勉強する場、図書コーナー	・縄文の学びを深めるための各種講座、発表会等が開催できる講座室を2階に計画。 ・2階ホールに隣接したスペースにライブラリーを計画。		
交流する: 交流を生み出し コミュニティを育む場	◎憩い・集い・交流 ・多世代の人が気軽に立ち寄れる場(ロビー、ラウンジ、カフェ) ・集いの場、土間空間、縁側、広場	・館内に入ったところに多世代の人が出会い、交流できるロビー空間「おらあとう広場」を計画。	・ロビー空間及び軒下(半屋外の縁側)と一体的につながり、集いの場として機能する前庭空間(体験の庭、展示の庭、実験畑)を計画。	
	◎「おらあとうの精神」に触れる・発信する ・コミュニティ形成: 井戸尻文化発信のためのグループ形成、わが事として関わる意識 ・参加・共創: 建物建設への参加、定期的な施設維持活動、環境整備への参加 ・魅力の発信: PR・イメージキャラクター(つつちーず)の発信	・建設プロセスにおいて、ワークショップ等を通じた参加やファンづくりにつながる機会創出を検討。		

20251220_新井戸尻考古館ワークショップで出された意見の設計・管理運営へのフィードバック

ハード(施設整備):青字 ソフト(管理運営):緑字

大項目	中・小項目	新井戸尻考古館	前庭・外構	フィールド
環境整備: 建築環境と フィールドの整備	◎ 建築環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> 大屋根と半屋外: 大屋根の下で多様な活動、寒くない吹抜け・快適な内部空間、雨の日も活動できる広い軒下 特徴のある屋根: 屋根に上がれる、屋根に土と草と木 自然との調和: 土地を痛めない建物、自然素材の使用 特別な体験を支える空間: 無影灯の照明、通路の工夫、人工物のない静かな場 土間空間: 体験工房スペース、気軽に立ち寄れるスペース 	<ul style="list-style-type: none"> 大屋根が連続する広がりのある空間や軒下で多様な活動が育まれるよう使いやすい計画に配慮。 吹抜けに床暖房等の設備を設け、快適に過ごせるような計画に配慮。 安全性の観点から屋根に上ることはできないが、縄文の考古館らしい特徴ある屋根のデザインに配慮。 土、木等の自然素材の活用、落ち着いた空間の創出に配慮。 気軽に立ち寄れるロビー空間「おらあとう広場」を計画。 		
	◎ 水場、火が使える場 <ul style="list-style-type: none"> 水場の設置 火が使える場所の確保 かまど: 縄文の暮らし体験 	<ul style="list-style-type: none"> 体験工房に水場を設け、器づくり等のワークショップが行えるよう計画。 	<ul style="list-style-type: none"> 前庭の「体験の庭」では、火を使った縄文の食を作る体験等ができるスペース、水場・炉を計画。 	
	◎ フィールドの整備 <ul style="list-style-type: none"> 散策と動線: 起伏のある散策コース、駅からのワクワクする導線 インフラ整備: ライトアップ、多言語案内 交通アクセス: 貸し自転車、電動キックボードのParking、大きな駐車場 	<ul style="list-style-type: none"> 展示や学びと史跡公園の体験が相互につながり循環するよう、新井戸尻考古館の2階レベルにブリッジを計画。 フィールドの説明や案内場を計画。 	<ul style="list-style-type: none"> 前庭に史跡公園方面とつながる回遊動線を計画。 敷地内に駐輪場を計画。 敷地内に普通車、バスの駐車場を計画。 	<ul style="list-style-type: none"> フィールドの整備は将来計画の中で検討。